サービスラーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2 年　可知　舞子
活動先：NPO 法人　だいこんの花
クラス：野尻　紀恵　先生

私は、NPO 法人だいこんの花で夏休みに活動を行った。だいこんの花の系列の高齢者施設、だいこん畑でデイサービスを行っている施設だ。サービスラーニングに行く前、とても不安があった。なぜなら、私はほとんど高齢者と関わりがなかったからだ。大学の講義で学んだ高齢者と関わるのに必要な知識や特別養護老人ホームで働く母から聞いた話でしかイメージがなく、どのようなことを行えばよいかなど不安に思っていた。正直、活動前から不安でしかなかった。事前訪問を行ったり、企画を立てているときも本当に自分たちの考えているもので良いのか、自分の考えでやって良いのかなど様々な不安を感じていた。施設の方の話を聞いたり、実際に施設内を見ても具体的なイメージがつかないまま、活動の前日まで時間が過ぎてしまった。どうにかなるように自分なりに精いっぱいやるしかないという気持ちだった。

そのような気持ちのまま、活動に入った。そのためか、事前準備を怠ってしまい企画を運営できるかできないかの瀬戸際になってしまった。自分たちで計画した企画にもかかわらず、活動前日まで何も準備ができていなかったのだ。職員の方に迷惑をかけるだけでなく、利用者様が楽しみにしてくださったり利用者様に提供するという考えが自分に欠けていた結果が招いたものだと感じた。職員の方、一緒に活動した人の協力もあり、なんとか企画を行うことができるようになった。行った企画は、施設で日常行われているレクリエーションをひとつと毎年行われている夏祭りの運営だ。企画書の作成から当日の運営まですべてを行った。どのようにしたら利用者様に楽しんでいただけるのか、思い出に残る夏祭りになるのかなど考え、当日まで試行錯誤して運営をしていった。その他は、利用者様とレクリエーションを行ったり、食事をしたり話しをしたりした。

6 日間、そのような活動を行い、感じたことがあった。まず 1 つ目は、NPO でのやりがいだ。NPO は財源が乏しく、賃金も少ない、ほぼボランティアというイメージがあった。また、NPO は敷居が高く特定の人以外には関係のないものだと思っていた。しかし、私のそのイメージは 180 度変わった。利用者様や職員の方の笑顔に溢れ、とても温かみのある施設だった。そして、自分の生活してきた地域で最後まで過ごしていただきたいという気持ちやミッションを職員の方が共有しているのがわかるほど、いろいろなことに積極的で利用者様のために精いっぱい考え、行動しているというのが伝わってきた。その様子を見ているうちに、なぜ NPO で働く人がいるのかがわかってきた。賃金や昇給を今の若者は重視している傾向が強いと感じる場面やニュースをよく目にする。しかし、本当にそれだけで仕事を選んで良いのかと施設にいるときに感じたのだ。確かに生活していく上では、必要になってくる。しかし、私は賃金より大切なものをそこでみつけることができた。それは、『やりがい』だ。日本福祉大学で福祉を 1 年ほど学び、自分が何をしたいのか悩んでいた時期のサービスラーニングの活動だった。そのときに活動して、改めて福祉の原点を見た気持ちになった。利用者様を第一に考え、住み慣れている町で最後まで過ごしたい

という方の意思を尊重し、一緒に過ごしていくという気持ちをもっている代表の方を中心に、同じ気持ちをもっている職員の方が集まり、活動していると私は感じた。

また、学生に対する見方が大きく違うと感じた。自分たちの学びのために、施設にお世話になるという形で伺う学生は、正直邪魔に近い存在だと感じていた。そのため、何も言わず、施設のやり方に従って過ごしていけばよいものだと考えていた。しかし、活動をしていくなかで、「今日はどうだった？」や「何か変えたほうがいいとかある？」など自分たちの考えを聞いてくださる場面がとても多かった。活動が終了し、再び施設へ伺う機会があったので、代表の方に「なぜ学び途中の学生を拒まず、サービスラーニングという活動を受け入れているのか。」と質問をしてみた。返ってきた答えは、自分のなかにはなく、とても驚くものだった。「学生が次期世代を担っていることもある。けれど、学生の目はとても面白い。福祉が低賃金で苦痛が多いといわれているときに福祉を楽しいものへとどんどん変えていく力がある。1 つの同じものを見たときでも、学生が 10 人いれば、似てはいるものの、違う言葉で 10 通りの答えが返ってくる。それを放置しておくのはもったいないと思う。それに、その学生の意見で自分たち（NPO の職員）も考えたりすることも多くある。」そう返ってきたのだ。私は、この答えが返ってきたことで今までもっていた NPO 法人への考えがすべて取り払われた。難しい制度や財政の問題などさまざまな問題が福祉には多くあるが、気持ちという面では NPO という場所が一番強いと感じた。自分がなぜ日本福祉大学へ入学したのか、自分の福祉に携わりたいという気持ちをもう一度見つめなおすことができた。

活動が終わり、振り返りをしていくなかで、私はなぜ NPO 法人は同じ気持ちをもっていて、高い志で活動をしているのに、学生や若者には伝わらないのか考えた。活動前の私のように NPO に対するイメージが強いのかと思った。そのイメージを払拭するために、私たち学生は何ができるだろうと考えた。まずは、NPO を広めていくことだと感じた。私は日本福祉大学に入学して 2 年ほど経つが、サービスラーニングを行うまで、NPO 法人が知多半島に多く存在し、中間支援施設があることも知らなかった。まだ、多くの学生が NPO があることすら、知らないかもしれないと考えると広めていく必要があると考えた。さらに、NPO 法人に興味を持ってもらうために、さまざまな広告を福祉大生が作成していくことも効果的だと考えた。そうすることで、NPO 法人と福祉大生の間につながりが生まれ、さまざまな活動をお互いに実行することができると思ったからだ。

私は、サービスラーニングが終わり、安心したと同時に名残惜しいと感じた。1 年間かけて学んだことはとても大きく、来年度実習を行う自分にはとても良い経験をしたと思う。しかし、学んだ反面、反省する点も多くあり活動を行った施設へまた伺い、活動を行いたいと感じている。まだまだ、学び途中だが、将来もし自分が NPO で働くことがあれば、この 1 年間で学んだことを大切にしながら働きたいと思う。